

目次

(90) 製品関連記事

▽「紙に書いたメモ電子化／ワコム」

(91) その他、各種関連記事

▽「小学校教育に参画 障害者の支援も」

(92) 新刊紹介

▽『見方を変えればうまくいく!発達が気になる子の子育てリフレーミング』

▽『同行援護ハンドブック 視覚障害者の外出を安全に支援するために第2版』

▽『障害のある人とそのきょうだいの物語 青年期のホンネ』

▽『発達障害児とその家族を支える 香川県丸亀市の挑戦』

(90) 製品関連記事

▼「紙に書いたメモ電子化／ワコム」

ワコムは紙のノートに書いたメモを電子化できるノートケースを10月に発売すると発表。A4サイズのノートを置いてメモを書き、ボタンを押すと、一連の筆跡データをスマートフォン(スマホ)やタブレット(多機能携帯端末)に送信する。多数のメモを一元管理でき、後から編集することも可能だ。

発売するのは「バンブー・スパーク」。アナログとデジタルの利便性を融合させたスマート文具として売り出す

ノートを置く場所にセンサーを配置しており、専用のペンがどのように動いたのかを検出する。専用ペンは筆圧を1024段階で検知可能で、筆圧データも一緒に記録する。利用者が記録ボタンを押してから次にボタンを押すまでの筆跡を1ページのメモデータとして保存する。ノートは厚さが約5mm以内の市販品を利用できる。

(日経産業新聞 9月7日7面より抜粋)

(91) その他、各種関連記事

▼「小学校教育に参画 障害者の支援も」

長野県のJA洗馬は、塩尻市が地方版総合戦略に掲げた教育目標の実現に向け、小学校運営を支える。今年度から産地の歴史や現状を含めて地域農業全体が学べるようにする。JAの豊富な人材を生かした教育支援策も検討していく。

JAは戦略を踏まえ、これまでのレタス体験学習を改善する他、障害がある児童向けにメロン作りを指導するカリキュラムを学校側に提案している。併せて、特別支援教育への協力も視野に入れ、2016年度発足させるJAの農業法人に障害者を雇用する方針を固めている。

(日本農業新聞 9月7日1面より抜粋)

(92) 新刊紹介

▼『見方を変えればうまくいく!発達が気になる子の子育てリフレーミング』

発達障害のある子どもの支援に長年携わってきた著者が、子どもの見方・関わり方をQ&A形式で解説。日常生活から学校との関わり、学習、家族、進路のことまで、悩みの多い子育ての場면을ポジティブに変える実践を紹介する。

著：阿部利彦（あべ・としひこ）

発行：中央法規出版

本体価格：1800円（税別）

ISBN：978-4-8058-5234-7

▼『同行援護ハンドブック 視覚障害者の外出を安全に支援するために第2版』

視覚障害者の外出サポート、同行援護・移動支援にかかわる人へ向けて、障

害者を取りまく社会環境、外出支援の制度、代筆・代読の基本知識、歩行介助の基本・応用技能、同行援護の場面別技能などを解説する。

著：松井奈美（まつい・なみ）

発行：日本医療企画

本体価格：2000 円（税別）

ISBN：978-4-86439-347-8

▼『障害のある人とそのきょうだいの物語 青年期のホンネ』

障害をもつ兄弟姉妹をもつ 14 人の「きょうだい」たちが、兄弟姉妹がいて良かったこと・面白かったこと、いやな思いをしたこと、兄弟姉妹や親へのさまざまな思いを語る。「きょうだい」への支援についても論じる。

編著：近藤直子（こんどう・なおこ）田倉さやか（たくら・さやか）

発行：クリエイツかもがわ

本体価格：1000 円（税別）

ISBN：978-4-86342-167-7

▼『発達障害児とその家族を支える 香川県丸亀市の挑戦』

香川県丸亀市に誕生して発展し続けている「丸亀市発達障害児支援協働事業」。市役所の部局ではなく、NPO を事業展開の中軸に据えた“地域による支援”のカタチを紹介する。具体的な実践事例も掲載。

編著：あいざわいさお

発行：学文社

本体価格：2400 円（税別）

ISBN：978-4-7620-2555-6

(編集後記)

住んでいるマンションの大規模修繕工事が終わった。

ほとんどが内部の配管等の修理なので見た目には変わったところは少ない。

その少ないうちの 하나가、ベランダを囲う外壁だ。

住んでいるマンションは、全体が白く塗られており、各部屋のベランダも、厚み 10 センチ、高さ 1 メートルほどの白い外壁で囲われている。

今朝、部屋の中からベランダに目をやると、その外壁の内側にうっすらと何

本もの筋がついていた。昨夜まで強く降っていた雨の跡だ。
これは、大規模修繕工事以前にはなかった光景である。
よく見るとベランダの外壁は裾広がり傾斜している。
工事前はこの傾斜が外側についていたのだが、工事後は内側になった。
そこで、この雨の跡はこれまではマンションの外側、つまり、マンション周囲から見えていた光景であったのだと理解した。
雨が乾かないうちに風が吹くと、この雨の跡に塵（ちり）が付着し薄汚れた縦線が何本も残る。
それが、内側になるか、外側になるかのことだけなのだが、本当なら、どちら側も、薄汚れずに済むとよい。さらに雨水が正しく循環し、それにはコストもかからず、となればもっと良い。
そしてこれは共用品の課題と似ているな、などと朝から考えた。
それにしても、何日かぶりの晴れの空を見ながら、茨城、栃木等での水の被害が、広がらないことを願うばかりである。（星川安之）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>